

## 第4回町田薬師池公園四季彩の杜魅力向上計画改定検討委員会 会議録

○開催日時 2023年8月8日(火) 14:00~15:30

○場 所 町田市庁舎4階 4-1会議室

○出席者 出席委員：川原晋委員長、寺田徹副委員長、石井秀幸委員、  
仲村清彦委員、菊山聖哉委員、越水淳委員、  
園田理恵委員、樋口健治委員、坂本愛委員  
欠席委員：なし  
傍聴者：なし  
事務局：観光まちづくり課長  
他事務局2名

○資 料

- 1 町田薬師池公園四季彩の杜魅力向上計画~Ver.2~案
- 2 町田薬師池公園四季彩の杜魅力向上計画~Ver.2~案(概要版)
- 3 市民意見募集結果及び回答案
- 4 前回計画案からの主な変更点
- 5 第3回検討委員会会議録
- 6 第3回委員会の意見とその対応

○次 第

- 1 開会
- 2 市民意見募集結果の報告及び回答案の説明
- 3 「町田薬師池公園四季彩の杜魅力向上計画~Ver.2~案」について  
・前回の計画案からの主な変更点について
- 4 その他
- 5 事務連絡
- 6 閉会

事務局から市民意見募集結果及び回答案の説明、計画案等の変更点に関して説明を行い、以下の質疑応答があった。

## 1)「町田薬師池公園四季彩の杜魅力向上計画～Ver.2～案」について

- ぼたん園の区域だが、西側の接道部の林が2～3ヶ月前に伐採され、宅地造成が進んでいる。都市計画図を見ると都市計画公園の網がかかっていない民有の緑地だったようだ。区域に含めた絵（区域図）で大丈夫か。

→確認させていただく。（事務局）

- 基本方針2に「新しい小動物とのふれあいと学習機会の提供」とあるが、ふれあいについて、年々厳しくなっている。動物に衣装を着せるのは禁止となり、イルカにえさをあげて芸をやることも、今後大きな問題になってくる。「ふれあい」という言葉についても、今後、慎重に使う必要がある。「ふれあい」、「新しい動物」という表現は見直したほうがよい。

→「ともに時間を過ごす」といった言葉がどうか。

→大事な部分なので、委員長預かりとし、事務局と検討の上確定版に反映させたい。

- 見開きのイラストについて、本計画のP.5は、地域の人や外の人に価値を伝えていこうというメッセージがある。概要版は整合を取った方がいい。

- イラストがレトロなどの意見があったが、コンサルタントは多くの要望に応えてくださった。今後の計画策定の際には、取りまとめる作業とグラフィックデザインは別で発注していただきたい。グレード感を下げずに、プロを入れられるように、観光まちづくり課が音頭を取って予算組してほしい。

- 市民意見募集の結果や広報的に伝わるという意味では、紙媒体の威力が大事だが、今回は弱かったと感じた。

- 概要版・計画書がブランドになる。ここからさらに10年間をかけた経過を含めて常に変化するというイメージで行ってほしい。デザインについてもプロを入れてほしい。

→今後への申し送り事項として、次の計画策定業務の発注仕様書の中にブランディングに知見のあるデザインの専門家の方に関わってもらうようにしていただきたい。

・薬師池公園のつばきは品種が確定しているだけで736種類。実際は30年前に1000種類植えた。30年の間に銘板が取れてしまって、5年前に調査して736種類が確定した。残りの200種類は雑木林が大きくなりすぎて、日光が入らなくなって花がつかない。都内では深大寺と新宿御苑につばき園があるが、東京の中では、薬師池が、1番種類が多いのもう少し宣伝してほしい。

・雑木林が大きくなったというご意見があったが、最近では、ナラ枯れの問題も各地で起こっている。雑木林の管理をしていく必要がある。

・昭和30年前後まで、町田市ほぼ全域で炭焼きをやめた。当時は8年に1回伐採をしていた。炭焼きをやめてから、68年。大木になり、ナラ枯れ病が発生した。

・ナラ枯れ病は、各地で出てくる問題。継続的に対処していく問題だと思う。地域の方々に理解していただくように取り組む必要がある。P.41の「みどりの適正な保全」はこれ以上書くとハレーションが起こりすぎて危険という判断か、日本全国で起こっているナラ枯れ問題など、説明文の記載がもう少し必要ではないか。

・ウェルカムゲートでは、指定管理者が間伐をして市民の方に木を提供している。間伐を知ってもらうことが始められている。教育的な体験が少しずつできている。理解を進めるためには、体験を通して伝えていくしかない。

・森の若返りについては、政策的にどう位置付けていくのかが重要である。計画内に「間伐」の言葉が入ったのは大事だが、この言葉が入った理由がもう少しあるといい。コラムで森を守るとは、どのような考え方をに入れるのだろうか。

・人工林という言葉を使った方がいいのではないか。天然林と人工林の概念が混在している。天然林は元来、白神山地や大台ヶ原や屋久島である。それ以外東京都の雲取山は昭和20年代から植林している。

・地域の方が教育的なことも含めてやっている写真も添えて徐々に始めていることの説明が半ページでもあるといい。

・本文よりはコラムの方がいい。里山や雑木林の考え方、ナラ枯れが問題となっている。ナラ枯れ問題は指摘した方がいい。航空写真を見ると夏にも関わらず木

が枯れているのがはっきりと目立つ。大樹木になっていて、公園でグランピングやキャンプをやる以上は、安全面は配慮しながらやらないといけない。ナラ枯れは放っておいたらどんどん悪くなる。若返りしないとイケない。森の若返りを図ることや、積極的に手を入れることは少し書いておいた方がいい。

→構成の問題もありますので、確認して対応していきたい。(事務局)

・ブランド・アイデンティティが目次から消えて、ブランディングの成果に変わっている。本文にはブランド・アイデンティティの言葉が残っているが、タイトルを変えたかったのか。

→ブランディングについてマイナスだけでなく、成果もあるということで、見出しを変更した。ブランド・アイデンティティについては説明として残している。(事務局)

・8/5 地域の夏まつりを4年ぶりに行った。引継ぎなし、ノウハウなしの状態で行った。場所や机やいすなど西園指定管理者にお借りして大変お世話になった。各施設の方々と共存共栄できる関係であればいいと感じた。

## 2) その他

計画に携わっての感想等。

・まずは形になって良かった。この計画から個別計画に進んでいくが、そのプロセスにおいて新しい魅力的で豊かな利用のイメージが出てきて、園と園での連携した姿がはっきり現場で見えるようになってくる。これをアップデートし、積み重ねておくことが大事である。10年後に何か計画を作る際にすぐにイメージが出てこないし、現場ごとに新しいことが起きるので蓄積しておく。アップデートしていき、土台を作ったぐらいのイメージで今回の計画をとらえておけばいい。

・イラストが上手く書けなかったのは、イメージが不十分なためである。日頃から写真を蓄える、西園や観光協会で蓄えておいていただければイメージになる。

・P44、45の工程表は工事のイメージ。利用イメージを豊かにするためのワークショップやその都度どのような課題があるのか振り返ってみる。10年分一気に振り返るのは難しい。ここに記載はできないが、現場での振り返りや新しく出てきたアイデアをストックしていくプロセスが大事。

・公園を皆さんで歩いてグリスロに乗ったことが大事。皆さんの目線を知っているとと思っていたが、また新たな目線も話し合えたのは良かった。学びが多い時間だった。あえて課題をあげると、濃厚な話し合いをして形になったが、市民意見募集の数が少なかったのが残念である。今後も定期的にアンケートを実施していただきたい。継続して意見をいただきフィードバックしていくべき。委員会も3年に1回、5年に1回、何らか進捗状況など話し合う場があるといい。市民が10年どう見ているのか、委員もチェックしている場があるといい。

・計画を行政の棚に置いてだけではなく、この計画を楽しく公開する方法を考えていただきたい。進捗の確認（モニタリング）もあればいい。

・指定管理者という立場で会議に参加し、「民間だったら何ができるのか」という視点で考えた。行政とは運命共同体だと考えている。酷暑の中、公園に来て、「食べる場所がない」と市民から言われた。そこで民間でやれること、市に申請を出しラボ・体験工房を翌日には夏季限定で無料開放を行えるようにした。臨機応変に、丁寧に取り組むことで市民の期待に応えられるのではないかと考えている。1番の引っ掛かりは概要版であり、今後アップデートしていただくとのことなのでほっとしている。手に取って見てもらい、最初の印象は大事なので、申し送りとしていただきたい。

・今、リス園は自由に運営をさせてもらっているが、指定管理という話もあり、やきもきしているところである。四季彩の杜でどう貢献ができるのかを考えてきた。メディアに取り上げられる話もあるが、リス園は今後どうPRしていくか考えていきたい。

・市民意見募集の件数が少ないということで、まだまだ四季彩の杜がPRされていない。休憩所が少ないというご意見で、薬師池の東屋、ファーマーズセンター、ぼたん園の休み処もあるが、まだまだ知られていない。見せ方も工夫していく。計画ももう少し地元の方に見ていただきたいかった。四季彩の杜ならではの土地の良さや自然、歴史などまだ掘り下げられていない部分もあるので、地元の方と協力しながら発信していきたい。もっとPRしていきたい。

・議論、現場調査、グリスロ乗車など経験させていただいて良かった。はじめは四季彩の杜って何？というところから始まったが、理解ができて良かった。

- 地元の人間にとって、四季彩の杜が進化する期待感がある。計画に関わったことにより周りに話をし、10年先を見据えて計画されていくと話をしていきたい。地元としては10年、さらに10年とチェックしていきたいと思う。

- リス園開園した時のように、本土シマリス、ニホンリスを手乗りできるスペースがあると嬉しい。薬師中が今後、廃校になるので、南園と一緒にいいスペースにできたら嬉しい。

- ニホンリスが6匹譲渡されて、今年は繁殖が上手くいかなかった。来年度以降徐々に増やせると思っている、ニホンリスのスペースも今後の計画に反映していただけるように提言していく。

- フランクに議論できたのが良かった。今後いただいた意見を次の計画につなげられるように、どのくらい関わられるか分からないが、寄り添いながら進めていきたい。

### 3) 事務連絡

本日をもって委員会は終了となる。

以上